

2023年度 IoT/AIコース ソフトウェア一覧

コード	科目名	講師	ソフトウェア・環境
共通	－	－	Office（Excel、Word、PowerPoint） Zoom Googleアカウント（Colab・スプレッドシート・スライド）
K04	スマートIoTシステム・ビジネス入門	増倉	TensorFlow、Keras、Anaconda（Python）
K05	IoT版ビジネスモデル 仮説検証プログラム	－	なし
K06	IoTイノベーション	－	なし
K07	アーキテクチャ	久保秋	BridgePoint
K08	セキュリティ・プライバシー・法令	竹之内	Postgresql、ARX
K09	組込み・リアルタイムシステム	荒木	Renesas統合開発環境 CS+ ※Windowsのみ（Mac版リリースなし）
K10	クラウドサービス・分散システム	－	前半：なし、後半：K14の項を参照
K11	ビッグデータマネジメント・ アナリティクス	石井	R
		鷺崎 岡崎	Ubuntu on Windows、Java8、 CCM（Cassandra Cluster Manager）、YCSB ※LinuxやMacOSXの環境でも実施可能だが、 事務局から案内できるインストール方法はWindowsのみ
K12	推論・知識処理・自然言語処理	上田	SWI-Prolog
K13	機械学習	－	Google Colaboratory（Python）※要Googleアカウント
K14	クラウド基盤構築演習	中島 佐々木	OpenStack TeraTerm
K15	無線通信・IoT通信・ センサネットワーク	新井	Node-RED ※第5-6回演習はWindowsのみ（通信環境設定の都合）
		竹岡	TeraTerm
K16	センサ	－	なし
K17	IoTとシステムズアプローチ	全員	Slack（講師への質問やグループワークで使用） astah*（開講後ライセンス配布）
K18	深層学習	－	Google Colaboratory（Python） Anaconda、Pytorch
K19	品質エンジニアリング	早水	NuSMV
		本田	R

ソフトウェアのインストール方法

詳細は、履修登録後に参加できるLMSのコース（科目ごとのページ）に掲載します。

Macの利用について

講義で使用するソフトウェアが対応していない場合があります（代表例：K09、K15）。

また、事務局からご案内するインストール方法も基本的にWindows10向けのみとなります。

なお、特別なソフトや環境が必要でない科目への参加はMacでも問題ありません。

会社で受講する場合の注意点

社内パソコンを利用したり、社内ネットワーク下での受講を検討中の方は、各ソフトウェアインストールやアクセス等に問題がないか、必ず事前に社内のセキュリティ担当者へご相談ください。

参考として、過去の受講生から問い合わせがあった例は以下となります。

- ・Zoom ・Slack（K17） ・クラウドへのVPN接続（K10、K14：国立情報学研究所のクラウドを使用）
- ・Googleアカント（K07他：Googleスプレッドシート・スライド K13、K18：Google Colaboratory）